

令和7年2月9日（日）イオン八事ショッピングセンターでのおくすり110番の活動「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」[共催 特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構：NPO J-DO]

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすりの適正使用」や「薬物乱用の防止」に関する授業、体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。イオン八事ショッピングセンターに訪れたご家族を対象として、2月9日（日）に4階 G.G イベントコーナーにて、「名城大学薬学生とご家族と一緒に学ぼう！くすり実験教室」をおくすり110番の薬学生と共に開催しました。名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）の活動として今年度8回目の活動となりました。

当日はご家族をはじめとし、延べ22名が来場されました。参加者からは、「薬を飲むときに学んだことを意識しようと思いました」「色々な薬があることを知ることができました」「実験ができて楽しかったです」などの感想を頂きました。今後取り上げてもらいたいテーマとして、「カプセルについてより詳しく知りたい」「ステロイドについて」「薬の選び方について」などが挙げられており、今後の活動に活かしていきたいと思います。日常の薬に関する疑問や服用薬については、教員や院生の薬剤師が丁寧に対応していました。

今年度最後のおくすり110番の活動となりました。来年度は薬剤の配合変化に関する内容の体験実験を計画しています。今後の活動を通して大学で学んだ知識を振り返ると共に地域医療の重要性を学んでいきたいと思っています。

— イオン八事ショッピングセンターにおける「くすり実験教室」 —

日時：令和7年2月9日（日）11時00分-14時00分

場所：イオン八事ショッピングセンター（4階 G.G イベントコーナー）

内容：

・「体験実験」

コーナーを4テーブル設置し、5つの実験を体験できるブースを用意しました。薬学生（院生およびEプロ5年生3名、4年生11名）は、実験目的の説明などを行いました。来場者からの質問にも丁寧に対応するよう努め、非常に貴重な学びとなりました。間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）には、集客や実験が円滑に進められるように助言をしていただきました。

<実験項目>

①薬の溶ける工夫（飲みやすさ）

②薬と飲食物との関係（相互作用）

実験1：コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」を飲むのはなぜ？

実験2：水がなくても飲める「くすり」があるのを知ってる？

実験3：シロップの「くすり」と「お茶」を一緒に飲むとどうなる？

実験4：「うがいぐすり」でうがいをした後に、

すっぱい食品を食べるとどうなる？

実験5：オレンジジュースで胃痛を和らげる「くすり」を飲むと

どうなる？

制作：名城大学薬学部病態解析学 I

(宮田凧、野田幸裕)

薬品作用学（間宮隆吉）

監修：NPO J-DO

